

地域間の連携で笑顔いっぱいふるさとづくり (平成25年度認定)



狩俣集落においては明治35年に自治会が結成されて以来、自治会を主体に造林事業、原野の開墾、農道整備が行われ、古くからの漁村の風景を残し、伝統ある追込み漁やもずく養殖も盛んである。近年では地下ダムのかんがい水を利用したサトウキビ、葉たばこ、熱帯果樹（マンゴー）の栽培も行われている。

集落は、手つかずの植物群落（神山＝フナムイ）や屋敷林のフクギが多く残され、良好な農漁村景観を醸成している。また、民俗芸能や数多くの歴史的文化遺産、祭事が残されており、自治会として保存に努めている。

近年は、土地改良事業の整備に伴い農漁業・観光振興に力を入れるとともに、Uターン者や新規参入者に対しても市営住宅の家賃補助や字有地の借地等を行うなど、定住促進の取組にも力を入れている。

自治会の下部組織として地域住民の出資により設立された購買組合（狩俣マツチャーズ）があり、生活必需品の販売や雇用の創出だけでなく、地元農水産物の販売や、修学旅行生の民泊受入窓口も行っており、また、地元の小・中学校生を対象に農漁業体験学習会を開催するなど、若者の地域産業に対する理解醸成を図っている。

このように、自治会活動を通じた連帯意識の向上や伝統文化の継承、他地区との交流に寄与していることから、良好なアメニティを提供し地域活動（特色）が活発であると認められる団体として集落部門に認定された。



フクギの屋敷林



大城元(ウプグムトウ)



海神祭



農地・水・環境保全向上対策事業の取組



狩俣マツチャーズ



農業体験学習の支援